

## 5/21 (木) 自工会会見 本日のスケジュール

時間	内容	出席者
11:20-11:40	<b>1. 事前説明(2分)</b>	松山洋司・総合政策委員長
	②マルチパスウェイの社会実装 - 幹線輸送での水素トラック普及 (7分)	木全隆憲 (トヨタ) *TF リーダー会社 安藤寛信 (三菱ふそうトラック・バス) *TF サブリーダー会社 大畑光一 (日野) *TF サブリーダー会社
	⑦サプライチェーン全体での競争力向上 - 共同物流実装に向けた標準 PF 構築 (7分)	永野岳人・物流部会長 (ホンダ) 吉田晃朗・同 副部会長 (トヨタ)
	④人材基盤の強化 - 自動車産業カレンダーの見直し (4分)	祐川浩之・人財部会長 (ホンダ)
11:45-12:30	<b>2. 会見</b>	
	ご挨拶	会長 佐藤 恒治
	質疑応答	会長 佐藤 恒治 副会長 山口 真宏 鈴木 俊宏 イヴァン エスピノーサ 三部 敏宏 設楽 元文 松永 明

# 新7つの課題の取り組みテーマ案（2026.5.21 時点）

推進中 検討開始  
活動開始 内容合意

「新7つの課題」	取り組みテーマ案（■新規大玉 PJT/●継続取り組み）	進捗
①重要資源・部品の安全保障 …資源・部品不足による「作れない」をなくす	●リスク低減と後戻りしない仕組みづくり - 業界としての、足下の資源調達への対応力強化 - 競争・協調の明確化と、業界としてのコミット具体化	推進中
②マルチパスウェイの社会実装 …50年CNに向け、マルチパスそれぞれで脱炭素商品の普及を目処付け	■水素：幹線輸送での水素トラック普及 - 商用車を起点に水素需給を創出	活動開始
	■電気：走行中無線給電の社会実装 - 官民での高速道路電化計画具体化・実証により、社会実装を加速	検討開始
	●CN燃料：CN燃料の早期普及 - E20の早期実装に向け、E10対応を推進	推進中
③CEの仕組みづくり …経済安全保障・環境対応に向け部品・資源循環の仕組みを構築	●電池：静脈産業の事業化 - 国内リサイクル・海外セカンドループ・中古電池の価値見える化の仕組み実装	推進中
④人材基盤の強化 …安定した開発・生産・販売・サービスに向けて、継続的に人材が確保・育成される仕組みを構築	※今後のAI・ロボティクスの進化に応じて強化すべき領域が変わっていくため、産業への影響を踏まえ、改めて取り組みテーマを選定	テーマ選定中
	・産業の魅力向上に向けたカレンダー変更	
⑤自動運転を前提とした交通システム確立 …安全・安心な交通社会に向けて車・人・インフラ三位一体で仕組み構築	■事故ゼロ・自動運転社会実現に向けたインフラ協調の仕組み構築 - 通信・データ等の基盤統一で、他地域展開可能な「型」を策定	検討開始
⑥自動車関連税制抜本改革 …簡素化・負担軽減でユーザーに納得感のある税体系へ	●車体課税の簡素化・負担軽減 - 今回の税制大綱で示された「簡素化・負担軽減」の道筋のさらなる具体化	推進中
⑦サプライチェーン全体での競争力向上 …電動化・知能化や労働力不足に対応し、競争力を高めるべくSCを再構築し、現場の余力を拡大	■共同物流実装に向けた標準PF構築 - 積み荷・輸送情報を共通データPFに蓄積、共同物流拡大	活動開始
	■部品・素材共通化によるSC強靱化 - JAMA規格策定で、コスト・工数・リードタイムを削減	対象領域選定中

以上

# 1. なぜいま「水素」に取り組むのか

## 自工会が「水素」に取り組む大義

### ①エネルギー安全保障

- ・多様化するエネルギー環境に合わせて多様な選択肢を準備する

### ②産業競争力の確保

- ・日本が優位性を持つ3つの水素関連技術(次ページ参照)などを海外展開することでの国際的な産業競争力の強化

### ③脱炭素・GX (マルチパスウェイ)

- ・最終的にはPOVまで含めて水素活用を普及させることで、モビリティにおける脱炭素(マルチパスウェイ)を実現

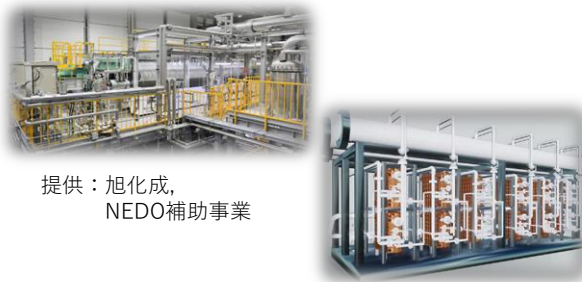
## 2. 日本の勝ち筋とロードマップ

### 日本の勝ち筋

日本が優位性を持つ3つの水素関連技術を活かして、  
業界連携で水素需給を拡大し、産業競争力強化

#### つくる： ①水電解

高効率な水素製造・安定稼働  
高いサービス性を兼ね備え、  
水素製造の世界市場獲得を視野



#### はこぶ/ためる： ②液化水素関連技術

極低温での高効率運搬・貯蔵  
広範な輸入先からの水素調達に貢献



#### つかう： ③FCセル/水素モビリティ

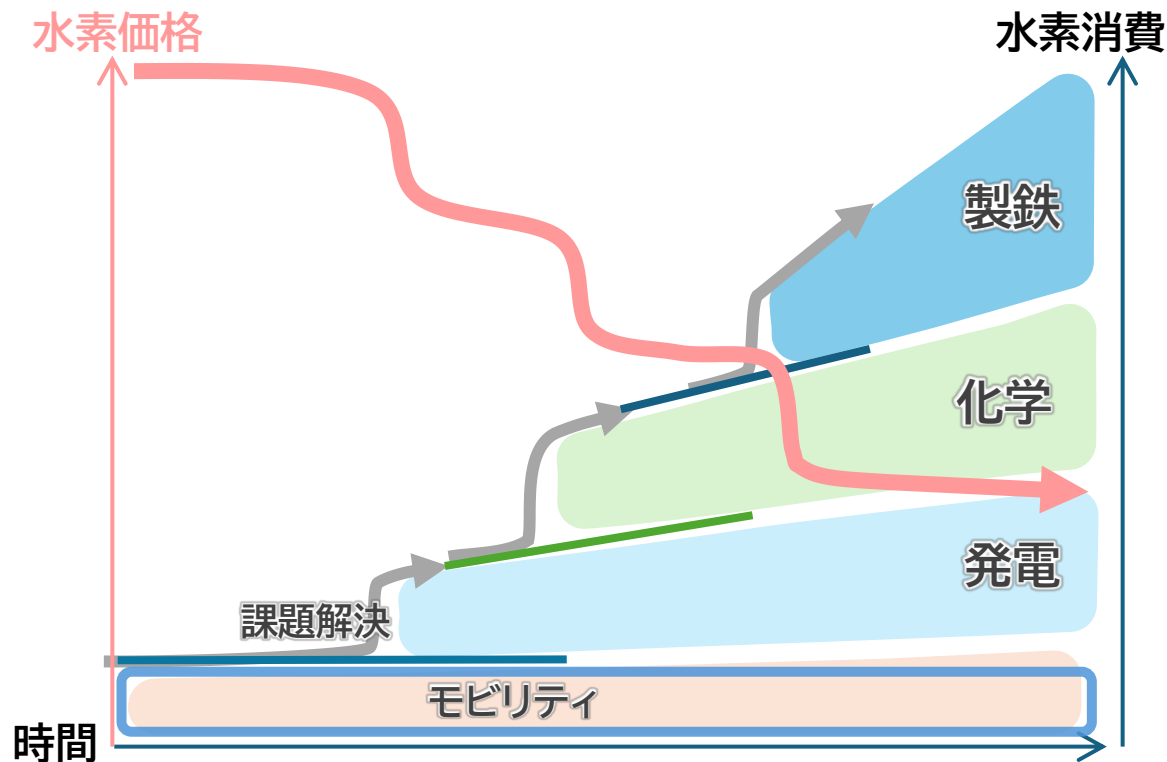
世界に先駆けマルチパスウェイを実行  
市場で鍛えられた性能、耐久性



### ロードマップ

基幹産業であるモビリティが先頭となり、  
他産業も含めた水素使用量を拡大  
(モビリティからつくる・はこぶ/ためるの課題を解決)

水素消費量が増えていくことで水素価格が低減される  
代替エネルギーとしての活用を促進



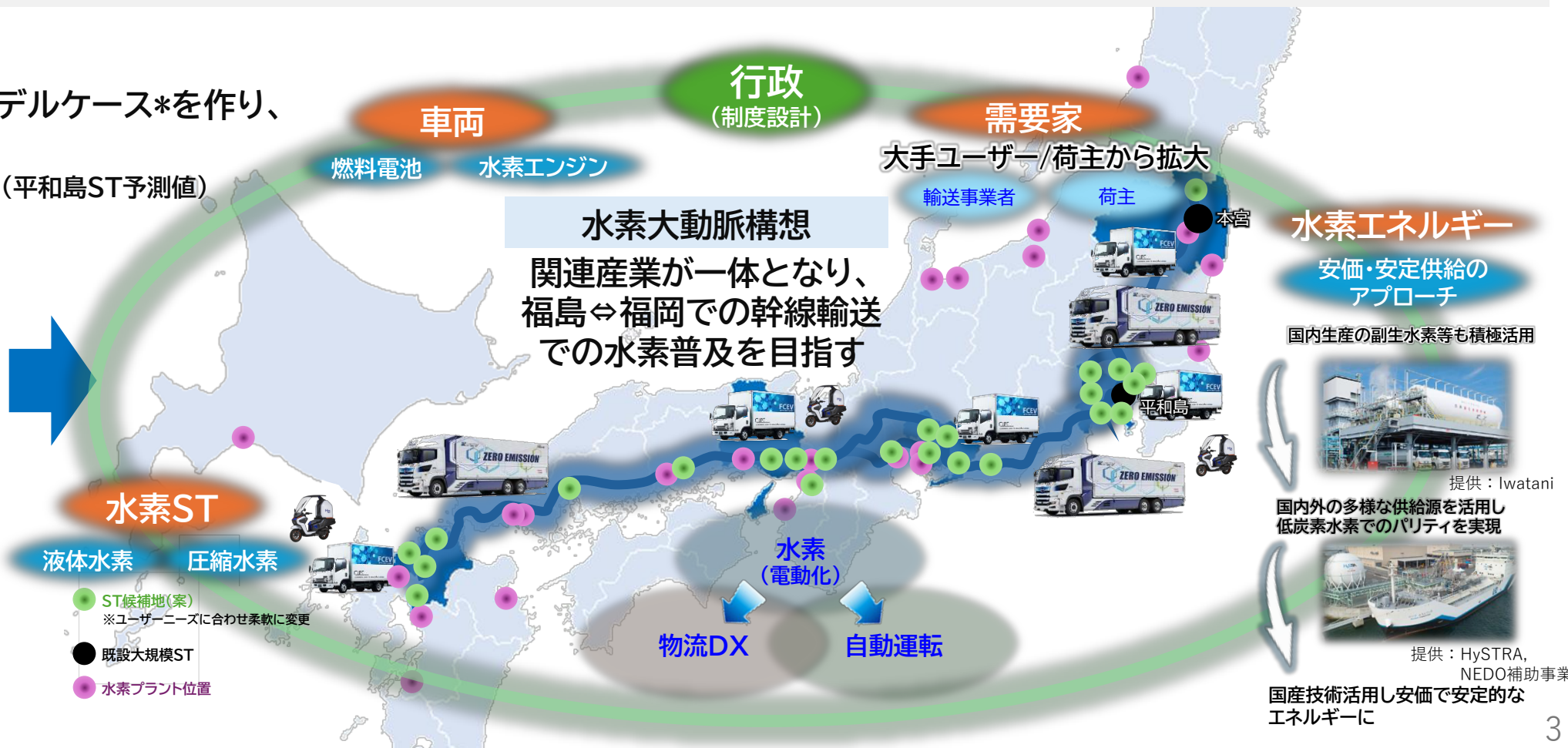
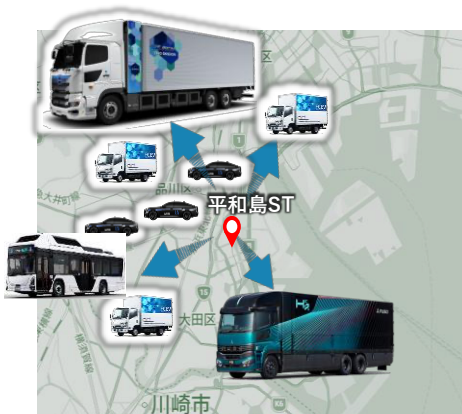
### 3. 自工会の取り組み

■ 誰もが水素を使える社会の実現に向け、幹線での水素事業の拡大を狙う「水素大動脈構想」を官民連携で立案・実現  
 自工会として、幹線輸送に水素トラックを活用するプロジェクトに取り組む

■ 「今後10年で、大トラ1500台相当(水素消費7500t/年)、水素ST+30基、水素価格1000円/kg」  
 を基準に、自工会(OEM)として、国・自治体、ユーザー、ST事業者と一緒に歯車を動かす

経済合理性が成り立つモデルケース\*を作り、  
 全国に拡大

\*約80台 年間250t黒字化 (平和島ST予測値)



# 1. 環境認識

## 日本経済を取巻く環境

- 自国調達可能な**資源が少ない**
- **自然災害**が多発
- **労働人口が減少**

## 物流が果たすべきこと

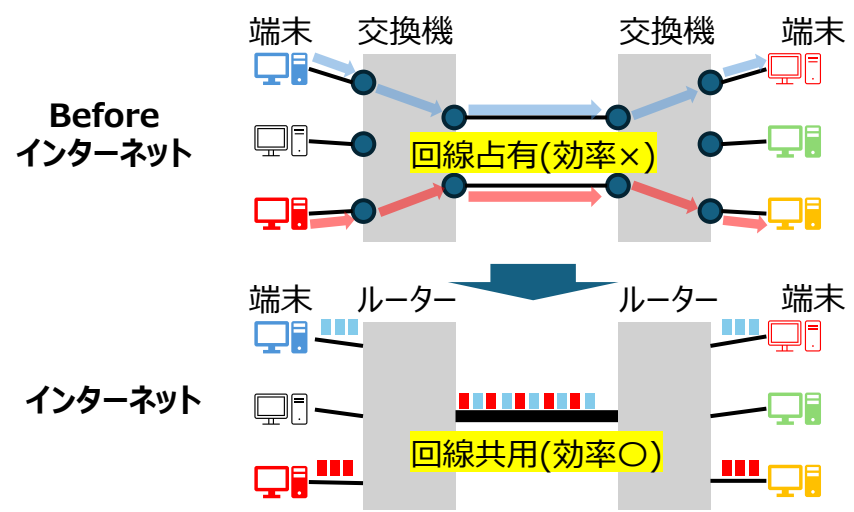
- 経済安全保障・成長の観点から、「**生産性・持続性・レジリエンスを有する物流**」の構築
- 戦略17分野の1つ「**港湾ロジスティクス**」強化に加え、**フィジカルインターネット(PI)構想**が示す**物流の実現**

「**物流大国 日本**」となり、**経済成長の律速を解消**

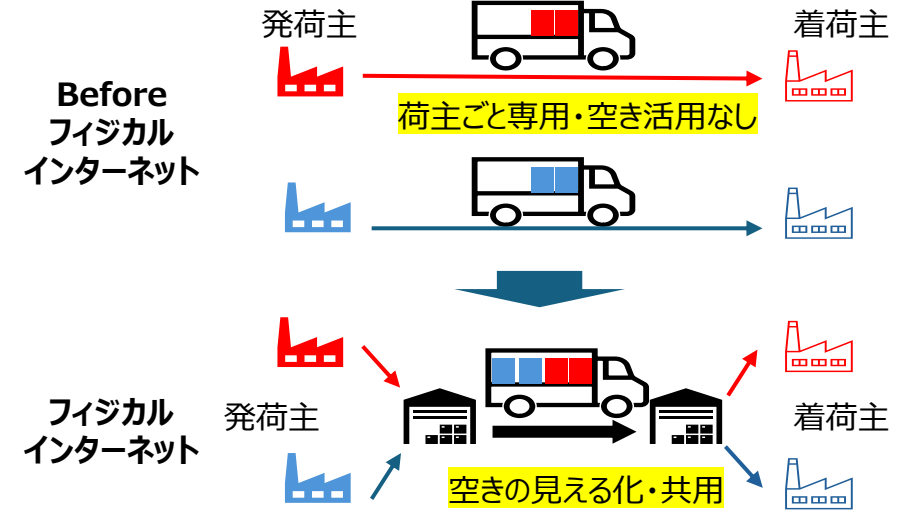
## ＜フィジカルインターネット(PI)構想とは＞

- **デジタルを駆使して、倉庫・車両をネットワークで輸送する共同輸配送システム。**
- 2010年ごろヨーロッパで提唱され、**日本でも経産省・国交省主導で2040年の実現を目指す。**

### [通信の進化]



### [物流の進化]



## 2. 物流大国として目指す物流 と 実施事項

### 目指す物流① 「循環型経済を支える」

➔ 高効率・ロスミニмумに資源循環できる物流

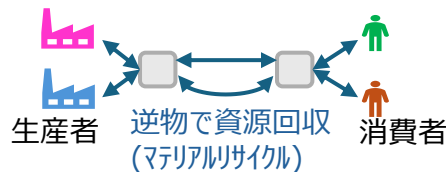
これまで

- 個別設計・個別最適
- 「順物流」を重視
- 片道、1way型



狙う姿

- 業界連携・全体最適
- 「逆物流」も活用
- 往復ループ、循環型

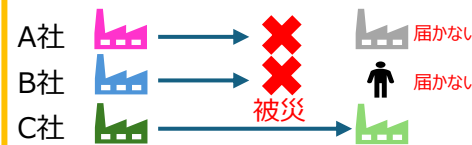


### 目指す物流② 「止まらない」

➔ 日本全体(経済・生活)が機能不全に陥ることを回避

これまで

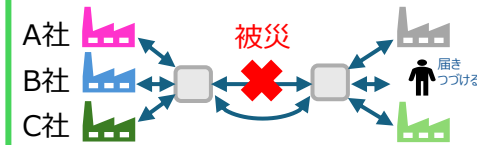
- すぐ止まる(バックアップなし)
  - 個社対応
- = 予防/復旧にコスト/時間要



経済活動・生活物資流通を直撃

狙う姿

- 代替ルート・複線化
  - 業界内外連携
- = スピーディーな迂回・再配分



“止まらない”による機能維持

自工会が実施すること

➔ 業界横断で、ALL Japanでの物流再構築にチャレンジ

1

**OEM連携(共同物流&データPF構築)**  
により**自動車業界の物流を効率化し**、  
ドライバー不足など足元問題を解決

2

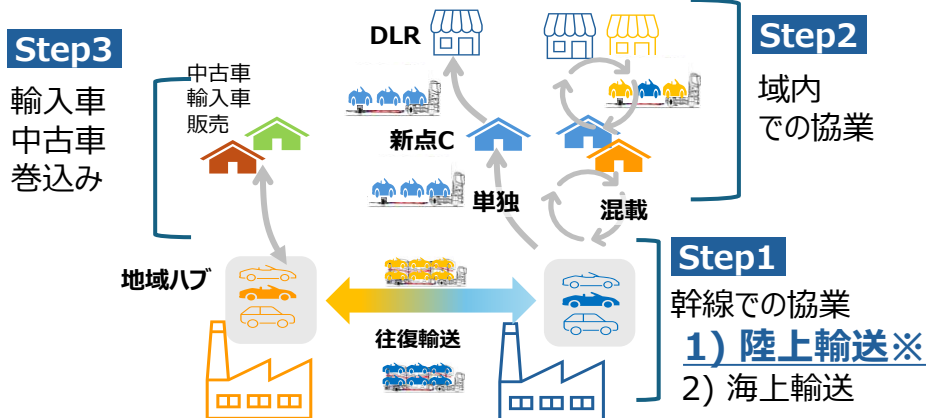
自動車物流をPIにビルトインすべく、  
PIゴールに向け**協業先行する業界と**  
**連携開始。リアル(輸送・モノ)と**  
**データ(情報)を同期させる基盤を構築**

# 3. 自動車物流NWの効率化(方向性)

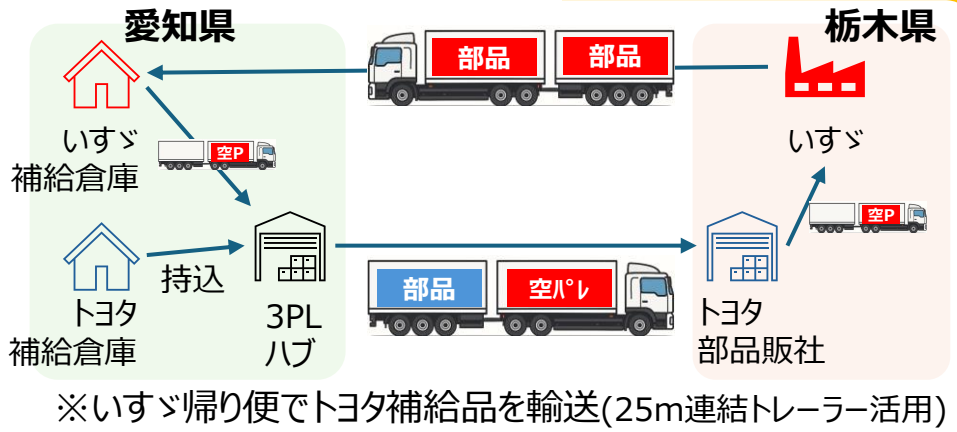
## 効率化プラン

- ① 帰り便(逆物流)活用効果が大いいと推測される“完成車物流”から開始
- ② 同様の効果が見込まれる用品・補修品物流など、事例を積み重ね

### ① 完成車物流 協業Step

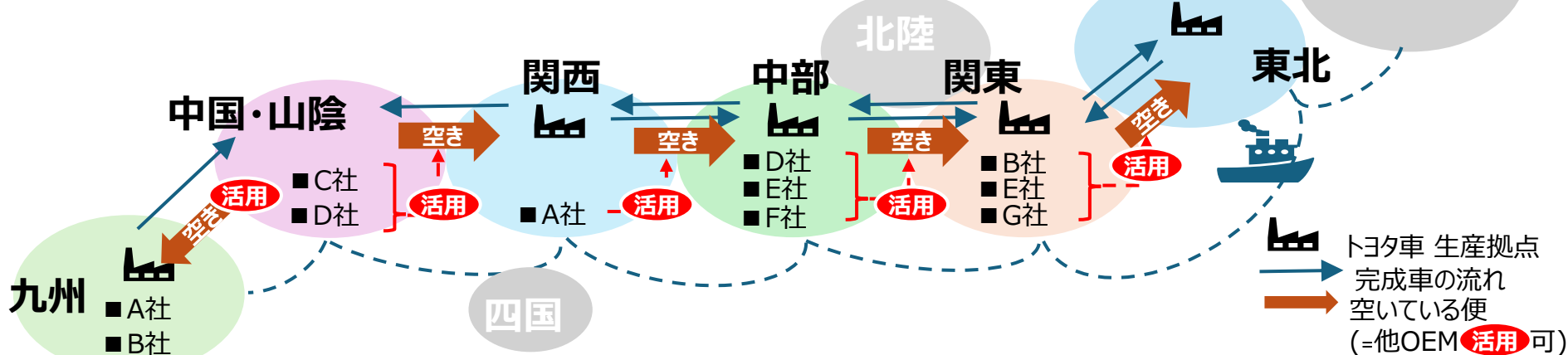


### ② 用品・補修品物流 協業事例



### <① 完成車物流 協業Step1 陸上幹線協業イメージ (下図:トヨタ帰り便活用の例)>

・準備できたOEMから順次帰り便活用 (28年末までに、体系的なしくみ化を目指す)



# 自動車産業の魅力向上に向けて (将来に渡り “選ばれる”産業へ)

- 「新7つの課題」への取り組みによる **抜本的な産業課題の解決**と併せて、業界一体となった「**働き方改革**」を推進することで、産業全体で「**生産性向上**」を実現したい
  - その第一歩として、**2027年度**より、祝日が稼働となっている**自動車カレンダー**を見直し、「**GW連休の平日を稼働日に変更**」、「**ハッピーマンデー (例 1/10,9/20) の休日化**」を実施
- 結果として、**休日増を含む多様な働き方を受け止められる、魅力ある産業構造へと進化**したい

